

哲学専攻

知の探究

知の根源から知の最先端へ

古代ギリシアから、近代を経て現代に至るヨーロッパ(ドイツ、フランス、イギリス)の哲学全般を網羅する科目群が設置されています。哲学一般、さらに、論理学、倫理学、美学・芸術学などを通じて、真善美など哲学知の根源を探究することができます。また、現象学・解釈学、心の哲学、言語哲学、科学哲学、法哲学、社会哲学、比較思想など、知の最先端の研究を通じて、現代社会の諸問題に哲学的な仕方アプローチすることができます。

昼夜開講制により、社会人院生を含む各院生は、それぞれの研究目的、スケジュールに合わせて柔軟な学習計画を立てることができます。また、留学制度や海外の大学との連携も充実しています。

<p>アドミッション・ポリシー (学生受け入れ方針)</p> <p>強い研究意欲と一定以上の学力(論文執筆に必要な思考力・論理的表現力、哲学研究を進めるうえで必要な外国語能力、哲学分野の基礎的な知識)を有する者に、他分野・他領域の出身者や社会人も含め、広く門戸を開放しています(外国語試験は社会人入試では課していません)。</p>	<p>カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成・実施方針)</p> <p>哲学研究を推進し、学際的・国際的視野を獲得することができるよう、多様な専門科目と外国語科目を幅広く設置すると同時に、体系的なコースワーク制を実施しています。少人数制の授業の特性を生かし、コミュニケーションを中心とする院生主体の授業を展開して、研究能力の開発・向上に努めています。また、きめ細かな個別指導に加えて、研究発表会など教員全員による指導の機会を設けて、着実に学位論文を完成できるように、配慮しています。</p>	<p>ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)</p> <p>修士課程の学位は、専門知識や研究能力を習得し、一定水準以上の修士論文の作成を所定の年限において果たした者に授与します。認定は専攻会議の決定によります。博士後期課程(課程博士)の学位は、さらなる専門知識や研究能力を習得し、一定水準以上の博士論文の作成を所定の年限において果たした者に授与します。認定は人文科学研究科教授会の決定によります。論文博士もこれに準じます。</p>
--	---	---

専任教員と主な担当科目 (2017年度) ※年度により授業を持たない場合があります。

<p>安孫子 信 教授</p> <p>専攻: フランス哲学・フランス思想史 研究テーマ: 人間と科学技術、オーギュスト・コント、ベルクソン研究 担当科目: 科学哲学研究Ⅰ1・2/Ⅱ1・2</p>	<p>安東 祐希 教授</p> <p>専攻: 数理論理学(証明論) 研究テーマ: 古典論理や様相論理の体系における標準化定理 担当科目: ※今年度は、特定の科目を担当しません</p>	<p>奥田 和夫 教授</p> <p>専攻: 古代ギリシア哲学 研究テーマ: 現在の特約的テーマはプラトンの政治哲学 担当科目: 古代哲学史研究Ⅰ1・2/Ⅱ1・2</p>
<p>笠原 賢介 教授</p> <p>専攻: ドイツ近・現代思想、比較文化 研究テーマ: 20世紀ドイツ哲学・思想、18世紀ドイツ思想、近代日本思想の再検討 担当科目: 比較思想研究Ⅰ1・2、哲学ドイツ語研究1・2</p>	<p>酒井 健 教授</p> <p>専攻: ジョルジュ・バタイユ研究、ゴシック文化史、西洋美術史 研究テーマ: ジョルジュ・バタイユ研究、芸術論、西欧美術史 担当科目: 近代フランス哲学史研究Ⅰ1・2/Ⅱ1・2 哲学フランス語研究1・2</p>	<p>菅沢 龍文 教授</p> <p>専攻: カント哲学、西洋近代思想 研究テーマ: 近代ドイツ思想、カントの道徳哲学 担当科目: 近代倫理哲学史研究Ⅰ1・2/Ⅱ1・2</p>
<p>中釜 浩一 教授</p> <p>専攻: 言語哲学・科学哲学 研究テーマ: 言語哲学・科学哲学・イギリス経験論 担当科目: 言語分析哲学研究Ⅰ1・2/Ⅱ1・2</p>	<p>星野 勉 教授</p> <p>専攻: 倫理学 研究テーマ: ヘーゲル研究、近現代日本思想研究 担当科目: 近代ドイツ哲学史研究Ⅰ1・2、比較思想研究Ⅱ1・2</p>	<p>牧野 英二 教授</p> <p>専攻: 哲学・倫理学・感性学 研究テーマ: 多元主義的立場や可謬主義的立場から、超越論哲学と解釈学との関係をめぐる従来の見解に対する批判的再検討 担当科目: 超越論哲学研究Ⅰ1・2/Ⅱ1</p>
<p>山口 誠一 教授</p> <p>専攻: ドイツ近現代哲学(特にヘーゲルとニーチェ) 研究テーマ: ヘーゲルからニーチェにいたるドイツ近現代哲学 担当科目: 実践哲学研究Ⅰ1・2</p>	<p>内藤 淳 准教授</p> <p>専攻: 法哲学 研究テーマ: 人権や憲法の基礎についての研究、進化心理学に基づく人間本性の研究 担当科目: 法哲学研究1・2</p>	

Graduate School of Humanities
Major in Philosophy

募集人員: 修士課程15名/博士後期課程2名
開講形態: 昼夜開講
キャンパス: 市ヶ谷
主な進路: 教育関係、情報通信、公務員、出版関係など

研究室紹介

内藤 淳 准教授



法哲学研究

人間本性と「正しい社会」

立憲の憲法をはじめとする社会的な規範や制度の正当化根拠を探る研究を進めています。授業では、ジェレミー・ベンサムに代表される功利主義に関する英語の論考を精読しながら、「人間の本性とは?」「道徳に客観的基礎があるか?」「正しい社会や法のあり方とは?」といった問題を議論しています。古典的・基本的な哲学理論を踏まえつつ、ゲーム理論、進化理論などの現代的な知見も取り込んだ多角的な検討を行うのが特徴で、受講生には、広い視野に立って学問的な洞察を深めてほしいと思います。

STUDENT'S VOICE



博士後期課程 在学中
関口 貴太

哲学・思想を、その歴史的・地理的な背景を含めて、さらに深く広く研究していきたい

学んだこと、身に付いたこと

語学力や読解力がさらに身に付いたことです。哲学専攻では、英語やドイツ語、フランス語の読解を必要とします。また、難解な哲学書や研究書を丁寧に読みます。なので、語学力と読解力が入学以前よりも身に付きました。また大学院では、自分分野以外の研究をしている人も居り、社会人の方も多数在籍しています。そのため、色々な立場の人と話すことができ、より人生観が広がったと思います。

将来の目標

将来は、修士課程や博士後期課程で培った研究をさらに続けていきたいと考えています。したがって、大学院において学んだテキスト読解や討論による多面的思考を用いて、研究職に就くことが今の夢です。そのためには、ゼミや専攻内の研究発表会に積極的に参加し、学会発表や学会への論文記載を目指していきたいと考えています。

研究テーマ 問文化性の現象学研究 - 後期フッサール哲学を中心に -

設置科目 (2017年度) ※開講科目は年度により異なります。()内は単位数

〔修士課程〕

言語分析哲学研究Ⅰ1・2/Ⅱ1・2(各2)
形而上学研究Ⅰ1・2/Ⅱ1・2(各2)
古代哲学史研究Ⅰ1・2/Ⅱ1・2(各2)
論理学研究Ⅰ1・2/Ⅱ1・2(各2)
近代倫理哲学史研究Ⅰ1・2/Ⅱ1・2(各2)
実践哲学研究Ⅰ1・2/Ⅱ1・2(各2)
近代ドイツ哲学史研究Ⅰ1・2/Ⅱ1・2(各2)
現代哲学研究Ⅰ1・2(各2)
科学哲学研究Ⅰ1・2/Ⅱ1・2(各2)
比較思想研究Ⅰ1・2/Ⅱ1・2(各2)
近代西洋哲学研究Ⅰ1・2(各2)
近代フランス哲学史研究Ⅰ1・2/Ⅱ1・2(各2)
超越論哲学研究Ⅰ1・2/Ⅱ1・2(各2)
ヨーロッパ精神史研究Ⅰ1・2/Ⅱ1・2(各2)
法哲学研究1・2(各2)
哲学ドイツ語研究1・2(各2)
哲学フランス語研究1・2(各2)
哲学基礎研究Ⅰ/Ⅱ(各2)

〔博士後期課程〕

哲学特殊研究1/2(各2)
言語分析哲学特殊講義1/2(各2)
古代哲学史特殊講義1/2(各2)
論理学特殊講義1/2(各2)
近代倫理哲学史特殊講義1/2(各2)
実践哲学特殊講義1/2(各2)
近代ドイツ哲学史特殊講義1/2(各2)
科学哲学特殊講義1/2(各2)
比較思想特殊講義1/2(各2)
近代フランス哲学史特殊講義1/2(各2)
超越論哲学特殊講義1/2(各2)
法哲学特殊講義1/2(各2)

修士生の研究テーマ

- ・機械論に抗うベルクソン
- 「試論」における因果性と自由の議論を中心に-
- ・ジョルジュ・バタイユの言語表現について
- ・カントの最高善と信
- 最高善を促進する義務の根拠
- ・プラトン「国家」におけるディアノイアの対象
- 教育とのかかわり-
- ・デカルト哲学における神の観念の認識についての考察
- ・マックス・シェラーの倫理思想における愛と人格について-自己と他者との相互性をめぐって-
- ・様相論理S5における自然演繹体系とヒルベルト流体系との同源性